

榎野川河口干潟・山口湾の『里海』の再生に向けた活動などをご紹介します。

山口湾のカブトガニに関する活動が『生物多様性アクション大賞2017』に入賞！



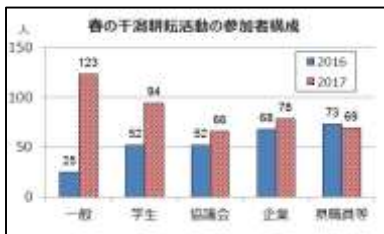
山口カブトガニ研究懇話会の原田直宏代表の指導の下、協議会カブトガニワーキンググループが2006年から行っているカブトガニ幼生生息調査や観察会などの活動が、国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017」に入賞しました！ 県内の活動では初めての受賞です。これまで活動にご協力をいただいた皆様に改めて感謝申し上げます。これからも応援よろしくお祈りします。



『榎野川河口干潟再生活動(AQUA SOCIAL FES!! 2017)』の参加人数が過去最多！

430人
干潟耕耘

毎年恒例、春の干潟再生活動。2017年4月29日(土)の活動には、過去最多の430人が参加しました！ 前回から160人も増加し、多くの方に活動に共感いただいていることを改めて実感しました。地域住民、大学、企業、漁業者、環境保全団体などの様々な立場で、大人から子どもまで、豊かな干潟を取り戻すために協働で汗を流しました。



- 大学生 94人
山口大学・水産大学校・山口県立大学
- 企業ボランティア 78人
トヨタ自動車4社・伊藤園山口支店・積水ハウス山口工場

里海づくりの情報を発信する『ふしの干潟ファンクラブ』が設立！

会員募集

干潟などで開催されるイベントや自然再生活動の参加者募集、野鳥やカブトガニなどの生き物に関する情報、調査研究の結果などを幅広く発信する『ふしの干潟ファンクラブ』を設立しました！

活動を応援したい方、イベントやボランティア活動に参加したい方、生き物が好きな方など、活動に共感いただける方のご登録をお待ちしています。登録は無料です。お気軽に事務局にお問い合わせください。

会員申込書は、山口県自然保護課のホームページ内でもダウンロードできます。
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15600/ryuiki/fushino/funclub.html>



山口湾のクロツラヘラサギの保全に向けた新たな取組が開始！

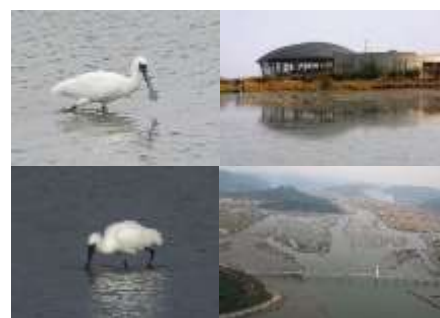
31羽
飛来数

クロツラヘラサギは、ペリカン目トキ科の渡り鳥で、しゃもじのような特徴的なくちばしを水中で左右に振りながら、魚やカニなどを捕まえるユニークな摂食行動をします。世界で約4,000羽しか生息が確認されておらず、環境省レッドリスト2017で絶滅危惧IB類に指定されています。

山口湾には2002年から飛来し、毎年NPO法人野鳥やまぐちによる調査が行われており、2017年度は過去最多の31羽が確認されました。

この貴重な渡り鳥の保全等を目的として、2018年度から、NPO法人野鳥やまぐちがサントリー世界愛鳥基金「水辺の大型鳥類保護」部門の助成を受け、山口県立きらら浜自然観察公園において新たな取組を開始することになりました！

日本で初めてとなるクロツラヘラサギの繁殖地の創出を目指しています。



榎野川河口干潟再生活動(AQUA SOCIAL FES!! 2017)

- 開催日：2017年4月29日(土)
- 場所：山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、榎野川河口干潟(南潟)
- 主催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
- 共催：トヨタ自動車(2012年から6年目) 後援：山口新聞社
- 協力団体・企業：山口大学、水産大学校、山口県立大学、山口トヨタ、ネッツトヨタ山口、トヨタカローラ山口、山口トヨペット、伊藤園山口支店、積水ハウス山口工場、榎野川流域活性化交流会、榎野川漁業協同組合、やまぐち県民ネット21



干潟耕耘

600㎡
干潟耕耘

人が干潟に手を加えることで、生き物が住みよい環境にする『里海づくり』のシンボリック活動です。600㎡(30m×20m)を70人がスコップなどで耕やし、うねを作りました。「固くなった地盤をやわらかくする」、「干潮時も海水が残り、生き物が快適な環境になる」、「あさりの幼生が干潟に付きやすくなる」、「還元化した下層に酸素が供給される」ことなどを目的として2005年から続けてきた活動です。



あさり再生活動

100枚
被覆網

「被覆網」の設置などにより、1990年頃から採れなくなっていたあさが徐々に復活してきました。被覆網は、あさがナルトビエイやクロダイなどに食べられたり、波浪により流されたりすることを防ぐ効果があります。また、ゴカイなどの生き物を増やす目的もあり、それらを食べる野鳥や魚類のためにも大切な活動です。この日は、やぶれた網や藻の付いた網の交換、より効果の高い網の検証などで、新しい網が約100枚干潟に設置されました。たいへんな作業でしたが、皆様のご協力で達成できました。



潮干狩り体験・生き物観察会

88人
子ども

子ども88人が干潟で自然を満喫しました。潮干狩り体験では、みんなで18kgのあさを掘り、少しずつお土産に持ち帰っていただきました。生き物観察会では、後藤益滋先生(山口大学)と水産大学校の学生さんが講師で、カブトガニやアナジャコなどの生き物とふれあい、生態などを学びました。この大切な自然を次の世代の子どもたちに残すためにも、里海づくりの活動を進めていきます。



榎野川の幸を味わう試食会

45kg
あさり

活動の前には、榎野川流域の森・川・海の恵み「山菜・柑味鮎の天ぷら」と「あさり汁」がふるまわれました。また、伊藤園山口支店さんから、子どもに飲み物のご提供をいただきました。自然からおいしい食材が得られるのも、森里川海で様々な環境保全活動などが行われているおかげです。参加者にとっても喜んでいただき、ふるまいを用意する皆様の笑顔も素敵でした。



カブトガニ産卵場・生息場の保全活動

カブトガニ幼生生息調査

913匹
カブトガニ

山口湾は、絶滅危惧種のカブトガニが生息する全国的にも貴重な地域で、干潟には幼生が暮らしています。協議会カブトガニワーキンググループ(WG)では、2006年から、山口カブトガニ研究懇話会の原田代表の指導の下、山口大学や水産大学校、ボランティアの協力による幼生生息調査を2006年から続けています。調査では、干潟を約1km歩きながら、カブトガニの個体数、大きさ、発見地点を記録します。ここ数年、発見個体数は減少傾向にあります。若い個体の割合が増えるなどの良い傾向がみられています。毎年参加いただいている方や、県外からお越しいただく方など、活動の輪が広がっていることを実感できます。



調査場所	調査日	参加者	調査対象範囲
長浜	2017年7月30日(日)	43人	約31ha
南潟	2017年9月8日(金)	8人	約24ha

カブトガニ産卵状況調査

1,122
つがい

6月～8月頃の満潮時前後は、産卵のため海岸を訪れるカブトガニのつがいが観察できます。カブトガニの生育状況を把握するためこのつがい数の調査はとても大切な活動です。現在、山口湾での調査は、山口カブトガニ研究懇話会の熱心な会員1名で行なわれ2017年度は36回の調査で計1,122のつがいが確認されています。

2018年度からは、ふしの干潟ファンクラブと連携して調査を進めたいと考えており、皆様のご協力をお願いいたします。



環境学習活動

カブトガニ観察会

5社
取材

本年度のカブトガニ観察会は、7月30日に協議会カブトガニWGが長浜で、8月6日に山口カブトガニ研究懇話会の原田代表が岩屋で行いました。7月30日は、19グループ計54人(うち子ども28人)が参加し、たくさんの方に干潟を体験いただきました。初めてカブトガニを見た子もいたようで、地域の自然を大切にする気持ちを養う、とても有意義なイベントでした。TYSテレビ山口、YAB山口朝日放送、NHK山口放送局、山口新聞、宇部日報に取材もいただき、多くの方に山口湾の素晴らしさをアピールすることができました。



あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟

50人
参加者

海を豊かにするためには、上流の森林の環境を守ることも大切です。近年、人の手が入らない竹林の増加が問題になっており、竹の有効活用が進められています。そこで、山口県環境保健センターが干潟で行っていた実証試験を参考に、7月22日にきらら浜自然観察公園と南潟で、環境学習イベント「あさり姫プロジェクト」を開催しました。竹林ボランティア山口さんのご協力で、ノコギリなどで榎野川上流の竹を加工して「あさり姫の館」(あさりのお家)を作成し、計43個を干潟に設置しました。館の中には砂と1cm未満のあさりの稚貝を入れ、第2回目のイベントで成長を観察します。イベントでは、水産大学校の学生さんに子どもたちの先生として、伊藤園山口支店さんに飲み物のご提供・スタッフとしてご協力をいただきました。



榎野川流域の活動

榎野川源流の碑 建立10周年

- 開催日：2017年5月13日
- 主催：榎野川流域連携促進協議会
- 内容：荒谷ダムの「源流の碑」が建立10周年を迎えたため、タイムカプセルを開封する記念行事を開催。



榎野川の幸のレシピ作成

山口県立大学の「やまぐち食べちやる隊」と連携し、榎野川の幸のレシピ集作成を開始。



野鳥の教室

- 時期：2017年12月3日
- 主催：山口市環境政策課
- 場所：きらら浜自然観察公園
- 内容：野鳥観察、工作教室

ヨシ焼き

- 開催日：2018年3月3日
- 主催：きらら浜自然観察公園 (NPO法人野鳥やまぐち)
- 内容：公園内のヨシ原の約2.5haを焼き払い。



宇津木の里の森林体験

- 開催日：2018年3月11日
- 主催：宇津木の里
- 参加者：33人
- 内容：枝打ち体験、シイタケ菌打ち体験、木工工作、ピザづくり等



榎野川水系クリーンキャンペーン

- 開催日：2017年7月30日
- 主催：山口市、榎野川漁協等
- 参加者：約700人
- 内容：河川清掃



ナルトビエイ駆除

- 時期：2017年7月～10月
- 主催：榎野川干潟を守る会 (榎野川漁協)
- 場所：百間橋付近
- 実績：28匹



榎野川河口干潟産のあさり販売

- 実施日：2018年3月18日
- 実施者：山口県漁協吉佐支店山口支所
- 場所：道の駅きららあじす
- 内容：山口湾産のあさり約100kg等を販売(完売)



榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議

2017年4月29日に第22回協議会会議、2018年2月24日に第23回協議会会議を開催しました。第23回会議では、榎野川河口干潟における調査研究等について報告をいただきました。

- 被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討(山口県環境保健センター 環境科学部 恵本委員)
- 温帯の干潟域における肉食性巻貝と二枚貝の分布(水産大学校 沿岸生態系保全研究室 安田氏)
- 榎野川河口干潟の土砂環境モニタリングの取組(山口大学 大学院創成科学研究科 白水助教)
- 環境DNA解析技術を生かしたアサリモニタリングの構築(山口大学 大学院創成科学研究科 後藤委員)
- 山口湾の干潟域におけるクロダイの出現の季節変化と食性および炭素・窒素源の推定(瀬戸内海区水産研究所干潟生産グループ 重田委員)
- 山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相(瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員)
- 山口湾のクロツラヘラサギの保全に向けて(NPO法人野鳥やまぐち 原田理事)



第23回協議会会議の出席者

【問い合わせ先】 榎野川河口域・干潟自然再生協議会 事務局(山口県環境生活部自然保護課)

TEL：083-933-3060

FAX：083-933-3069

Mail：a15600@pref.yamaguchi.lg.jp